

# 短期入所サービスの 取り組みについて

---

障害者支援施設 江古田の森 生活支援員

石崎 ゆかり

# 障害者支援施設 江古田の森の概要

---

- ・入所40床(身体障害10床、知的障害30床)、短期入所4床(各2床ずつ)  
生活介護(身体障害14名、知的障害11名)
- ・身体障害:主に脳性麻痺、精神発達遅滞、脊髄小脳変成症など、車椅子上で生活される方  
知的障害:主に自閉症、ダウン症など、知的に障害がある方。  
短期入所:障害に合わせて生活のしやすい環境(身体障害、知的障害)をサービス利用前の  
面談の時に生活相談員が判断している。
- ・日中は入所・生活介護・短期入所の全利用者が身体障害・知的障害のフロアに分かれ、  
活動を行っている。
- ・高次脳機能障害の方:(身体障害:入所1名、通所1名、短期入所2名)

# 事例：S氏

---

- ・40代 男性
- ・障害名：頭部外傷後遺症による高次脳機能障害  
(急性硬膜下血腫、右側頭葉を中心とする脳挫傷、水頭症)
- ・手帳：身体障害者手帳 第1種 第1級
- ・経緯：発症前は板前の仕事をしていた。平成19年に通勤途中に交通事故にあい左急性硬膜下血腫・脳挫傷。重度の左麻痺と高次脳機能障害が残る。  
自宅で生活していたが社会性を身につける場所、リハビリなどの訓練を受ける場所を目的に平成20年4月より当施設の生活介護を利用する。  
平成21年より家族の休養のため、短期入所を利用し始める。

# 利用開始した時の様子：S氏

---

- ・感情のコントロールが難しい。
- ・コミュニケーションはとれるが、早口で繰り返し話す。
- ・移動は全介助。
- ・排泄はおむつを着用している。空いた時間があると繰り返しトイレと訴えてしまう。
- ・左半側空間無視、注意障害が見られる。
- ・待つことが難しく、我慢する時間が長くなると自分の眼鏡を投げたり、  
周囲の物を投げてしまう。食事が配膳されると他利用者を待たずに食べ始めてしまう。

# 取り組み：S氏

---

- ・移動：廊下を職員と自走する練習を行う。
- ・食事：一番最後に配膳を行ない、他者と一緒に食べ始める習慣をつける。
- ・排泄：誘導する時間を決め、次に行く時間を時計で示し明確にする。
- ・集中力：余暇の時間にパズルを行ない、集中できる環境を作る。
- ・他者との関係：早口で聴き取れないことが多いため、職員を介し、他の利用者とのコミュニケーションの場を作る。

# 事例：M氏

---

- ・40代 男性
- ・障害：頭部外傷による左半身麻痺、高次脳機能障害
- ・手帳：身体障害者手帳 2級1種
- ・経緯：学生の際に交通事故にあい、障害を受ける。

平成23年より母の体調不良のため、短期入所を利用し始める。

# 利用の様子(1)

---

- ・ナースコールを頻回に鳴らしてしまう。
- ・共用のテレビのチャンネルを他の利用者に断らずに変えてしまう。
- ・自走はできるが蛇行し、手すりに掴まり動いている。
- ・他者と会話していても、自分の話を聴いてくれるまで話し続けてしまう。
- ・ジェスチャーに過敏に反応してしまう他利用者に対し繰り返しジェスチャーをしてしまう。

# 利用の様子(2)

---

・夜間、寝て居る時に職員に殴られたと家族に訴えた。利用の翌日に母より「ショートステイから帰って来たのだが、右のこめかみに傷がある。黒く痣になっている。本人は押すと痛いと言っている。職員に夜、寝ている間に殴られたと言っている。」と連絡が入った。

該当職員に確認を取り、夕方、自宅に説明に行く。

- ・電話では右のこめかみと話しているが本人は眉間を示していた。
- ・前に利用していた施設でも暴言を吐く職員を注意し、その職員はやめている。
- ・「マスコミに流したら重罪になる」と話していた。

→退所前に看護師が眉間を見ているが、殴られたような外傷はなかった。

→夜間帯のビデオ撮影を提案したが「結構です」と話があった。

→利用は継続したい。生活介護も利用したいと話があった。母の病状悪化により生活介護は利用は無かったが以降も短期入所は継続して利用している。



# 利用の様子(3)

---

## ・火災報知機の誤作動

早朝、職員が他利用者の起床介助をしていると、火災報知機が鳴っていた。火災報知機の前にはM氏がいた。本人は下記の話をしていた。

「火災報知機の前に誘導されて、前に殴られた事を思い出し、フラッシュバックして思わずおしてしまった」

「火災報知機の前に居て赤いランプに魔法をかけられたようになった」

「今、考えてみるとそんなことをしてもどうしようもないのは明確なんですけど思わず、赤いランプに吸い寄せられるかのごとく押しちゃいました。」

→話が二転三転としており、火災報知機の前には誘導していなかった。

その後、押したことを認めており、家族から「家でも何度かセコムを作動させている事がある」と話があった。

# 現在の様子：M氏

---

- ・約2～3ヶ月ごとに4～5泊程度、利用している。
- ・他利用者に対するジェスチャーは続いており、トラブルは継続している。
  
- ・高次脳機能障害に対する理解を深めるため勉強会などを行っているが、短期間での  
かかわりでは計画的な取組みが難しい現状がある。